~早期体験学習「一泊研修」での取り組み~

新海成美*、小嶋悠希*、大石瑞樹、酒井幹康 Narumi Shinkai, Yuki Kojima, Mizuki Oishi and Mikiyasu Sakai

愛知学院大学 薬学部医療薬学科 School of Pharmacy, Aichi Gakuin University 1-100 Kusumoto-cho, Chikusa-ku Nagoya 464-8650, Japan

はじめに

愛知学院大学薬学部では、薬学部生として学習に対するモチベーションを高めるため、卒業生の活躍する現場などを体験することを目的として早期体験学習行っている。1年次では一泊研修・特別講演・製薬工場見学・2年次では薬局見学・病院見学・人体解剖見学を行い、その中でも一泊研修についてまとめた。

一泊研修の概要

1日目は学部長挨拶・薬学部紹介・専門課程・教養部紹介・脇屋義文教授による特別講演「薬剤師になるために」・グループディスカッションを行い、2日目はグループディスカッションの報告会・高橋利忠先生による特別講演「がんの発生・予防・治療」・愛知健康プラザ見学を行った。図1は学部長挨拶・薬学部紹介・専門課程・教養部紹介の様子である。

今回はこの中でもグループディスカッションを中心に まとめた。

グループディスカッションの目的

新入生の目的は、能動的学習の初歩を体験させる・ディスカッション終了時に一応の達成感が得られる効果を期待する・教員からではなく上級生からの教育による学習効果を検証する。上級生の目的は上級生から新入生への教育効果ならびに上級生の自己学習効果を検証することである。



図1 1日目

グループディスカッションの内容

議題は【調剤ミス・新型インフルエンザ・推薦入学者への補習講義・冬になると高齢の入院患者が急増・アルコールの作用】があり、上級生はファシリテーターとして新入生のグループディスカッションを行った。これらの議題について問題点や解決策について話し合い、結論を見出した。2日目に、前日のグループディスカッションについて発表した。(図2)

参加者に対するアンケート

一泊研修の終了後、参加した新入生および上級生全員



図2 グループディスカッションについて

にディスカッションについてのアンケートを行った。アンケートは質問に対して「①強くそう思う、②そう思う、③あまり思わない、④全く思わない」の4つの選択肢の中から選ぶ方式とし、全9項目の質問の回答を求めた。その中でも4つの質問に対する解答について注目し、考察した。

① グループディスカッションにスムーズに参加することが出来たか

図3棒グラフの上段、今年度の肯定的意見(強くそう 思う、そう思う)を見ると、約6割の新入生はグループ ディスカッションにスムーズに参加出来たと答えている。 同図、他年度の数値を見ても、少なくとも6割以上が同 じように答えた。

この質問についての具体的な感想から結果を考察する。 スムーズに参加出来なかったという新入生には「人前

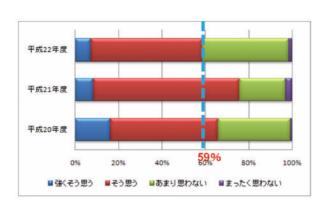


図3 グループディスカッションにスムーズに参加することができたか

で話すことが苦手だから」、という感想が、上級生の意見では「課題が難しいと意見も出しにくい」、というものがあった。

スムーズに参加出来たと答えた学生は「自分の意見を発言することが出来た」という声が多く、上級生視点からは、「ぎこちなかったがだんだん自主的に話し合えるようになった」、新入生も少なくなかったようだ。

従って、新入生・上級生ともに場の雰囲気や流れが出来れば比較的スムーズにディスカッションへの参加が出来るようになったのではないかと考えられる。

② ディスカッションにおいて班員同士で円滑なコミュニケーションが取れたか

図4から、どの年度でも約7割の生徒がコミュニケーションをとれたと感じていた。

具体的な感想をからは、

コミュニケーションをとれなかった新入生の意見では「知らない人たちと話し合うことに戸惑った」、上級生の意見では「どのように下級生と接してよいかわからなかった」という意見があった。

肯定的な意見としては、「意見を言ったり聞いたりすることによってコミュニケーションをとることができた」、「はじめに新入生と打ち解けることで和気あいあいとディスカッションを行うことができた」という意見があった。

このように、初対面の人同士でいきなりディスカッションをすることはやはり難しいようだが、ディスカッションが進むにつれて、コミュニケーションをとれるようになったと感じた人が多数いた。

③ 問題の抽出および解決をすることができたか 図5より、本年度は新入生の約60%が問題抽出でき、

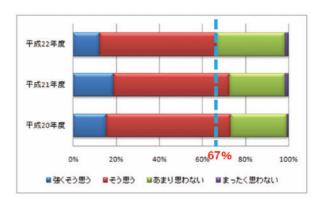


図4 ディスカッションにおいて班員同士と円滑なコミュニケーションがとれたか

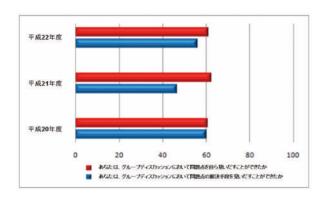


図5 問題の抽出および解決をすることができたか

55%が問題の解決手段を見いだすことが出来たとしている。

多年度に注目すると、問題抽出ができたという新入生の割合は毎年ほぼ同じだが、問題の解決手段にはばらつきがある。この理由は毎年ディスカッションに使用する課題が一部異なることが挙げられる。

この質問に該当する具体的な感想としては、

肯定的なものは「たくさんの意見が聞けたことで自分が 思いつかなかった問題点や解決策があった」という意見 あった半面、「ほかの人がたくさん意見を言うことでと まどってしまい、なかなか解決策を見いだせなかった」 という新入生もいたようだ。

また、上級生の中には「抽出できた問題が多すぎて論点を絞ることが出来ず、解決策を見つけることに難航した」、という意見もあった。

このように、具体的な例が出るとコツが分かって問題 点や解決策が言えるようになることがあるようである。

一方で、論点を絞って内容をまとめていくという、ディスカッションにおいての一番ヤマとなる作業は、ディスカッションの経験がほとんどない新入生はもちろん、ファシリテーターとして、自分の意見を言わずに中立な立場にいる上級生にも容易ではないようで、今後解決していくべき課題であるといえる。

④ 総合評価

図6より、どの年度の新入生も、約9割が「良かった」と答えている。先程考察した「参加」、「コミュニケーション」、「問題抽出と解決」の良し悪しに関係なく、大方の新入生が『このディスカッションは満足できる内容だった』と感じていたことが分かった。

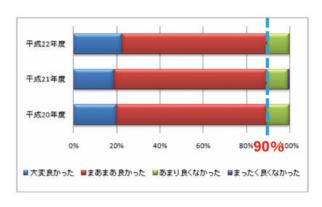


図6 総合評価

まとめ

一泊研修でのグループディスカッションは、ファシリテーターが上級生で且つ顔なじみではない人とディスカッションを行う緊張感の中、 ホテルという堅苦しくない環境で行われる。そのため、意見を多く抽出することが可能であり、新入生に「本格的なディスカッションを行った」という実感を持たせることを期待できる。また、ディスカッションや発表をしたことが強く印象に残るため、今後の能動的学習能力向上のための糧とすることが可能となる。

次に、新入生および上級生に関する成果をそれぞれ述べる。新入生の感想の中には「交友関係を構築できた」、「他の視点からの意見が聞けた」、「大人数の前で発言する良い機会になった」というものがあった。これらの意見に対して、「思ったことを言葉にできるようになりたい」、「これからの生活において人前で話せる力を身につけたい」という目標を自発的に設定している姿が見られ、新入生の今後の学習意欲が向上したといえる。

上級生は、「新入生全員がディスカッションに参加するよう促さなければならない」というファシリテーターとしての難しさや責任を感じていた。この結果、ディスカッションに対する意識が変わり、周りと協調することの重要性を再認識した。

以上より、一泊研修は参加した者にとって大変有意義なものであり、ディスカッションやコミュニケーション 能力、学習意欲向上のために必要不可欠な行事であったことがわかった。

追記

本報告は、平成22年7月3日岐阜薬科大学で開催された 平成22年度学生フォーラム「早期体験学習愛知学院大学 の取り組み」で発表した内容である。(図7)



図7 会場前にて